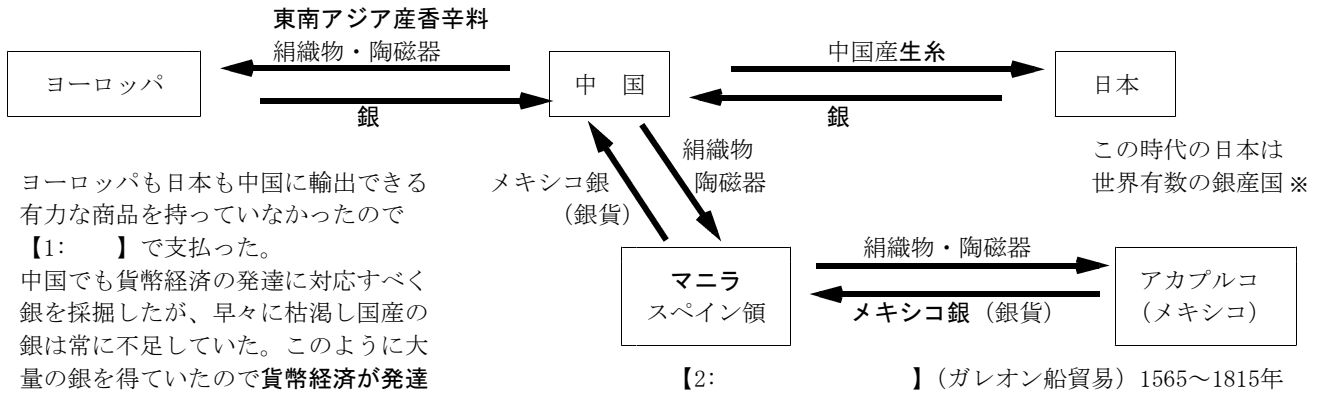


16世紀は、銀の国際的流通に支えられたグローバルな好景気の時期

1) 中国は大量の銀をゲットした。



ヨーロッパも日本も中国に輸出できる有力な商品を持っていなかったの  
 【1: 】で支払った。  
 中国でも貨幣経済の発達に対応すべく銀を採掘したが、早々に枯渇し国産の銀は常に不足していた。このように大量の銀を得ていたので貨幣経済が発達した。

※1530年代に朝鮮から進んだ製錬技術が伝来すると、日本はアジアで最大の銀産国となり、大量の銀はナマコ型の銀塊（日本国内では丁銀という秤量貨幣。輸出専用ではない）で中国に輸出された。中南米のスペイン植民地で採掘・鑄造された銀貨（メキシコ銀）が1570年代にマニラに運ばれ絹織物や陶磁器と交換された。こうして大量の銀の流入を得た中国では支払いや納税に銀を用いることが一般的になった。また、租税として集められた銀はモンゴル、女真にも流出した。

- 2) 【3: 】は16世紀には開発しつくされた。 当時の流行語！ 2)と3)はNo.75で既習  
 (宋)「蘇湖そこ(江浙こうせつ)熟すれば天下足る」→(元を省略)→(明)「湖広ここ熟すれば天下足る」  
 江蘇・浙江……長江下流域 湖広(湖北・湖南)と江西……長江中流域  
 「湖広ここ熟すれば天下足る」の意味＝穀倉地帯が長江下流域から、中流域の湖北・湖南・江西に移ったこと。施肥の普及と品種改良、二毛作などで稲作が更に発展した。
- 3) 国際商業の活発化は中国国内の商工業の発展を促した。明朝は桑・麻・綿花の栽培を奨励し、長江下流域は桑・麻・綿花などの商品作物の生産地になった。特に綿花は換金作物として盛んに栽培され、宋代に引き続き、【4: 】と生糸の家内制手工業が一層盛んに行われた。これが穀倉地帯が長江下流域から中流域にシフトした最大の原因である。綿花の栽培は全国に広まり、大衆の衣類は、麻から木綿に変わった！これらは、稲作の困難な地方でも栽培された。17世紀ごろから、中南米原産のトウモロコシが華北で、甘藷が江南で広く栽培された。甘藷(サツマイモ)は琉球経由で日本にも伝わった。甘藷も中南米原産。ヨーロッパ経由でルソン島から中国に伝わっていた。
- 4) 商工業者は同郷や同業ということで結束し、都市に【5: 】や【6: 】と呼ばれる集会所を作り活動拠点にした。特に遠隔地交易を担う商人たち(客商)の活躍はめざましく、明朝政府とも結びつき、同郷商人の集団として有力化したのは、次の2つである。農業に限界のある地域の人々が商業に特化したという面もある。  
 ①【7: 】または【 】安徽省・徽州府出身の客商……専売品の塩を扱う。 08H  
 しんあんしょうにん/きしゅうしょうにん  
 ②【8: 】さんせいしょうにん 山西省出身の客商……金融業・運輸業を中心に全国で活動。莫大な蓄財を行ったとされる。客商とは定住せず遠隔地交易で入手した商品を広範囲に持ち運ぶ商業形態。 08H  
 また、沿岸部の【9: 】ふっけんフーチェンの人々は海上交易に乗り出す例が多く、華僑かきょうの最も多い出身地の一つである。ただし、華僑という呼称は19世紀末葉からである。
- 5) 産業も発展、蘇州(江蘇省)、杭州(浙江省)など、商工業都市が発達した。  
 最も重要な世界商品は【10: 】と【11: 】とである。……国内、アジア、ヨーロッパに売られた。  
 景德鎮(江西省)などは窯業で栄える。「【12: 】あかえ」は重要輸出品だった。No.82で詳述

明の社会の変化

明の文化についてはNo.82にまとめた。

- 1) 産業の発展により、江南や広東のデルタ地帯を中心に貨幣経済が発展した。  
 明朝は紙幣の流通を試みたが失敗、15世紀半ば頃より銀を基本通貨と定めた。  
 当時の銀貨の例：【13: 】ばていぎん＝貨幣として用いられた馬蹄形の銀塊。使うたびに重量を量る秤量貨幣ひょうりょうかへいである。 写真による出題に備え見ておくこと。  
 貨幣経済の進展は徴税にも影響した。16世紀後半には土地税(田賦)と人頭税(丁税)など煩雑な諸税を、一括して銀で納入する【14: 】いちじょうべんぼうが江南から始まり、16世紀末には全国に波及。ちなみに唐代後半(780)から明代まで行われていたのは【15: 】であった。  
 大改革であった【14】は、清代には【16: 】ちていぎんせいに発展して引き継がれた。
- 2) 宋代以来の【17: 】でんこせい は、特に江南で定着。長江デルタでは「人のために働する者は十分の九」とまで言われたが、大規模経営は全国的に展開することはなく、農村の主役は商工業を副業とする小農民である。同時に、農村は租税・労役で苦しみ、繁栄する都市との格差は広がった。  
 商工業、貨幣経済が発達する一方で、【18: 】こうそ(小作料不払い)の運動は明代から繰り返された。

3) 【19:           】 きょうしん (科挙合格者を出し官界に発言権を持つ大土地所有者) が地域社会の新しいリーダーとなった。

### 2013 学習院大学 経済 <抜粋>

以下の各文章には、それぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句および、それに替わるべき正しい語句を記せ。

1 15世紀、明の3代皇帝の永楽帝は都を北京へ遷し、北辺の防衛のために万里の長城を築いた。その後、オイラトがモンゴル高原を統一すると、明により東は山海関から西は嘉峪関にいたる長城が整備されていった。明の長城よりも北方には、秦の長城がある。秦が全国を統一したときに、北方の遊牧民匈奴の侵入を防ぐために万里の長城を築き、その後の歴代の王朝もそれになった。北京近郊に残る明代の長城は煉瓦で造られているが、秦の長城は土を固めたり、石を積み上げたりして造った。秦の長城もさかのぼれば戦国時代の北辺の三国である秦・趙・呉の長城を連結して築いたものである。齊・楚・魏などの国々も内地の国境に長城を築いている。騎馬の戦法が戦国各国に導入されると、それを防ぐ長城が築かれたのである。

設問(1) 前漢は河西回廊に四郡を置いて秦の長城を西に拡張した。この四郡のなかでもっとも西の郡はどこか答えなさい。

2 モンゴル帝国第5代皇帝のフビライ=ハンは、大都(北京)に遷都し、国号を元とした。1279年南宋を滅ぼし、その都臨安(杭州)と大都を結ぶ大運河を建造した。これを京杭大運河という。この運河はさかのぼれば隋の時代の運河を補修して拡大したものである。隋の文帝は黄河と大興(長安)、淮河と長江を運河で結び、煬帝も黄河と淮河、黄河と北京の南、長江と杭州とをそれぞれ運河で結んだ。これらの運河は江南の穀物を長安や北辺に運ぶ役割を果たした。運河の完成後に煬帝は三度にわたって百済遠征を行った。日本の遣唐使も長江沿いの揚州に入り、そこから運河で北上している。近年、運河の遺跡からは航行した船舶も出土している。注：フビライは厳密にはハーンだが、誤りはそこではない。

設問(2) 北宋の都の開封は運河によって江南の物資が運ばれた。北宋末に開封を描いた絵巻物には開封に到着した船舶が見える。その絵巻物の名前は何か、答えなさい。

正解 1 誤…呉、正…燕 設問(1) 敦煌郡 2 誤…百済 正…高句麗 設問(2) 清明上河図

### 2012 早稲田大学 法 <抜粋>

A 14世紀になると元は衰退し、各所で反乱が起こった。a紅巾の乱の一武将だった朱元璋は穀倉地帯の江南地方を支配し、1368年に金陵で即位した。彼は大都に進撃し、元をモンゴル高原に退け、中国を統一した。君主独裁体制を確立するため、中書省を廃止してその属下の六部を皇帝に直属させ、都察院、五軍都督府を置き、こうして あ を分立させた。民衆支配として里甲制を実施し、里長や甲首に徴税や治安維持の責任を負わせた。

設問1 下線aの反乱に関して、中国史上の農民反乱はしばしば宗教と深く関わっているが、それにもっとも該当するのはどれか。 ① 陳勝・呉広の乱 ② 黄巾の乱 ③ 八王の乱 ④ 黄巢の乱

設問2 あ に入る適切な語句はどれか。 ① 監察権 ② 民政権 ③ 軍事権 ④ 三権

B 靖難の変で建文帝を破った燕王は、南京で即位すると北京に遷都し、江南と北京を結ぶ 大運河 を修復拡張した。対外面では、北方に対しては万里の長城を再修築し、タタールやオイラトを撃退してモンゴル勢力を一掃した。南方に対しては 内紛 で滅亡した陳朝の復興を口実にベトナムに進出した。南海地方に対しては鄭和に命じて大規模な遠征を行わせた。

設問3 下線bの大運河に関して、誤った記述はどれか。

- ① 大運河は隋の文帝が大興城(長安)と黄河を結ぶ運河を開いたことに始まり、煬帝のとき江南の杭州から涿郡(北京)に至る運河として完成した。
- ② 大運河に沿い水陸交通の要衝にある揚州に、唐代に最初の市舶司が置かれた。
- ③ 政治の中心地華北と経済の中心地江南を結ぶ大動脈として、隋以後の王朝においても大いに活用されていた。
- ④ 元では隋代の運河を改修し、新運河を開掘して補強し、さらに沿岸沿いに長江下流域から大都方面に至る海上輸送路も併用した。

設問4 下線cの陳朝に関して、正しい記述はどれか。

- ① 朱子学や国民文学が発達した。 ② 宋軍を撃退し、大理やチャンパーに侵攻した。
- ③ モンゴル軍の侵入を三度も撃退した。 ④ ベトナム最後の王朝である。

C 永楽帝の時代を頂点に、明はしだいに国力が衰退した。15世紀中頃、西北モンゴルの オイラト がモンゴル高原を統一して北辺に侵入した。同世紀後半にはタタールが内モンゴルを統一し、連年北辺に侵入して明に多大な被害を与えた。明は南方海上でも 倭寇 の被害に悩まされた。その防衛に莫大な支出を費やしただけでなく、東南沿岸地域が荒廃して経済的に大打撃を受けた。これによって明の国政は乱れた。

設問5 下線dのオイラトに関して、誤っている記述はどれか。

- ① 北元が滅びると、モンゴル高原では東部のモンゴル諸部族と西部のオイラトが勢力を争った。
- ② エセン=ハンのとき全モンゴルを統一したが、彼が部下に殺されると急激に衰えた。
- ③ 河北北部の土木堡で明軍を破って、正統帝を捕えた。
- ④ ダヤン=ハンやその孫アルタン=ハンを輩出し、チベット仏教を受け入れた。

設問6 下線eの倭寇に関して、誤っている記述はどれか。

- ① 倭寇は元代から登場し、武装した日本の密貿易者が朝鮮半島沿岸や中国江南の沿岸を略奪し、高句麗滅亡の原因ともなった。
- ② 室町幕府が成立すると、勘合貿易が開かれ、倭寇は減少した。
- ③ 16世紀になると、長江下流域から華南の沿岸地域で倭寇が再び急増した。
- ④ 明の海禁に不満をもつ中国人通商業者は、明の衰退に乗じて倭寇と結託し、密貿易や海賊行為を行った。

正解 設問1 ② 設問2 ④ 設問3 ② 設問4 ③ 設問5 ④ 設問6 ①